畫學百式帝　二

浮寝やわらを飢し沢枯枝

蘭幽子

二十一

川魚桔梗

花こんぜう 分立葉二ごん 緑青いろ

分立茎の汁 うすく紅色

蒼鷺 鶴鵠

用の四白絹 うちごうん 紺紫ごうんけて

去八地絣 黒の黒くろくわり上こもつく色

うすき黒にて毛去仕上こ背は分かど薄き

あいろくをあじやべし色合よく考べし

見切黒の黒く色 乳地絣 ちりお法色

つくく色ぐべし 背合まるど去のぎう

もみくまのべし色白絹 くさの汁去乳し

はくり脇ごうんく色毛去ごうんけて

二十二

勢井草

花白しごうんけぶこ 茎どみそいつけと

分立葉二ごん 緑青 分立ろくまの

去茎の汁にて

野鴈

用の四去ろう 緑ごうん 背黒黒の黒黒

く色 乳ちもまでもみの黒すくまる黒

毛去ぼこ色ふきべし 背中 黄土乃黒

黒くまするて 腹を去白 脇の抜れ

ぶくに合まるどけて色くり脇白しご

うんけりごうんを去見切黒く色毛去もみ

して

勢井草 茎高き時丁小

曼美

下系先の系搭切て鴨乃息　來示

二十三

澤潟　慈姑　睽菇　燕尾草

花ごうん中に淡ごうんにてつきを入上に赤をうをくべ一葉小緑まをけ裏ハ白緑まの付くゑ茎白緑まの付くゑ

鳧　鴨

目の円朱とみうちごうん背黒の異とくゑちやをけ頭黒の異上に淡黒あり
ちまに小緑まをくくくくべ一むゝ白ごうん
うてちまの異淡黒をくけ紅黒にて
府を付せうゑ下にてうすく黒うをつゞし
背黒のくま上にちやをけ風切黒にて
黒くゑ先一り爲ごうんくゑりくうろく
せ一り頭乃ゝ一肩白ごうんくゑ
雌黒くゑうをくくくうちやをくべ一肩白く
ごうんくまゑ白ゝ

二十四

石斛

花ゑ下の異とごうんくゑ白ゑまの付て
つき茎ゑ下葉緑まを付て

鸕鷀　鶿　鳥鬼　水老鴉

目の円朱とみうちごうん背黒の異と
ゑ下にてちまに一すゝくま背口黒ゝ茎の
ちまゝかくべ一頬より下のこゝ白一ごうん地
翅の下白一ごうんと頭黒ゑ淡黒にてく
まりわ下ゑ白きありわごうんにて安
へ一背中より風切尾まで黒一淡黒にご
くゑりをちとくべ一こと爲ゑ茎ごみの通も
ゑむくべ一むゝ下ゑ緑まで淡黒にてわう
ひ林のあうゝ小緑まをくべ一

石鮒や鵜川の色乃拝角

素尺

小道形みゆ小金原とり住ぬ

乘田花

二十五

小蓮華（これんげ）

花白しごうんに白絣をおかけくわりよ
ごうんゝ色花の搦より引み法ごうんな
て茎ゝとべし白蓮華のおゝ仕立ゞし
葉緑ゝ茎の汁ゝ色茎ゝ入べし

鶏鶺（こいさゝき）　文鑪

目の回花朱どみ目のうらより嘴つゝ、ゑ
て白ゝ茎ありごうんゝ○色嘴と足白絣
の上流めり足ゝ色ゝり目のまわり朱のさゝ
うゝくべし翼ゝ毛ゝ黒ゝ○
脇すて合ゝうどごうんゝ色朱どるゝて府
毛ゝあり横ゝ法合ゝゝこの府ありごう
けゝ半入ゝべし背中かゝさゝれゝり足ゝ色
尾の方ハ沢ゝうすゝ色ゝべし毛の先に
半ありごうんゝ入る見切ゝ尾足の長ゝ
くまゝ法ゝりごうんゝ色尾ゝうすくべし

二十六

苦薏（くらいさう）

是春菊也　菁高ノ野菊ニ非ス
又高麗菊ト云俗名也

花ゝうの長ゝくわり搦ゝりごうんゝ色
法ごうんにて茎ゝ心白絣わりごうんゝて
つゝと茎ゝうくゝ菊のゝ仕立ゞし
ゝゝ小絣ゝ付ゝ

鸛鳥（くいな）　水鶏ニ作ハ是ニ非ス

目の回合ゝうごうんあゝだ下あゝ足の長
嘴合茎ゝ先ゝり足ゝ色足肉色ゝ
どゝ茎ゝ朱どみうゝくゝけゝき
朱どみにて府と云腹足の長背中足
くまゝ、合ゝうどうすくゝ見切足くま
先ゝりごうんゝ色尾ゝうくまゝ朱どみゝく
べし

蓮子

二十七

菊

白紅黄はなの咲分　白いろ花白絹の見あく
めりごふんの海　紅い肉色朱仕立又冊て
仕立黄いろ〻〻の見又合ま〻ど之はない絵
はなの見名ゆずりて仕立花入咲分色と付べし
花乃河正花をゑん色を付てもべ〻
葉小絹まき裏白絹芝びやろく茎乃
ちべごふんつきちまうあいも

二十八

蓮

芙蓉　薔薇

紅白あり紅いろ花の見あげ海色あと
けて白い白絹の見うもくあてとごふんく
ま円ゞく茎に葉白ろあり葉の付すて
ちまけて海上に小絹まきうけ裏葉白絹
まれけ〻まけてもく仕立べ〻芝びや
ろく葉の付てつき枝葉うと色乃と
合ま〻ど朱ごみくべ〻

雉子　夏雛　仝

黄色ろ色の見く　り墨ん海色肉色朱紙
ぬりあ作仕立数絵うす色ゑま上に朱ずと
くべ〻脇羽ハ用あさだ見切羽先ごふんく
まみのも白絹芝の汁ゑ色に府を入服色
乃見ろとゑんま尾色ゑて
雌芝生の見合ま〻ど朱ごみて府を入色
ち門尾ま〻ど朱ずみて仕立べ〻

鷺

黄色ろとみて用のちまう見つ〻ハう絵
芝の付てゑ海りけのちまごぬりくべ
又芝ぬ黄もあり何候にはりゑ色ろと
ろくうり数月ゑとごふん一遍ぬりとゑ
ん海色に白ごふんまて仕立べ〻
芝ち入ニぐん絵ち付立

星花

水葵藻金の池渡り

竜廿

二十九

水菱（うつぼひし）

花ハ白花わさびの上ぐんぜうのごとくにて
ちぐさごうんうとなくべし葉小緑ちりめんのごとく
くまあるいづれも水のけしきさいかりにて
やうに合ゝてうごく母ハ茅ぐさみてそうを
入べし

水札（けて）

肉色ちりめんの茅のきわにそくはくの点肉色
わり茅のきわ〳〵ちりめんのごとくにて紅色
うとくわりて合ゝてうごけ茅ぐさもたしひす
ちりて去入肌切ぎりにて仕えべし背中黄土に
見ゝとも黄くまちりをうけ茅ぐさみてそも
去ちとべし腹ごうんわりはぐさもたし
ちくすべし

三十

白昌（あやめ）　菖（全）　蘭蓀（今）　白菖二色

花先ちりに法あらだ細糸青二遍もかくべし
ちりてうごうんうとなくちぐさ中に立
ちぐさ茎ぐれくまあるを用てめるべし茎白
緑葉の汁ちりに緑ちりめんに茅ぐさ
入べし

鴛鴦　雄ヲ鴛ト云　雌ヲ鴛ト云

背肉色ちりめんのごとく紅白しぼりにて
ひとつ腹まで茅の具法をみくに成上、ちぐさ
あいせをうつり紙後まで合ゝてうごけ
背中まで茅の具ちりすぐ仕えべし肌切尾までみな
茅の具をみ仕えべけるぎ羽も地合茅土
上、ちりにてくに成ちりめんべーと後、ど
うんちりに毛ちりさ入雌合ゝてうごけ
ぐと仕えべし腹ちりてうごの具合茅土くまちり
ずゝ毛去背ちりに去れ具をみ仕えべし雄のど
くに肉のちりごうんに紅白茅ちりめ
茅法仕えべし

周の羽ちりめ色ちりめ白　行安ち

三鳳

川骨やうんかゆうを枯えて　千盛

三十一

萍蓬草　川骨　俗字

花ちさくこの見ちべ金泥にても入べ合黄土
染茎とりて絵ちめり茎の汁茎ちくこ海
とりて
小茎ち入花付ちとう

鸕渠　水鶏

背もと赤く先黒しち地肉色めり朱ま
先よりすめうちとにくまく目の四ちめどみ
ちちごうん見節より下茎れ汁茎より
上ちんドの見ちんドいて付と
地月ちれ見わり見ちん海見ちもちう

三十二

南京梅

花ち一えちちうの見四一えちんドち見
ちんドいて茎ちつどミちちうの見うてる
茎ち汁

葡萄姫

背見ちうち茎の見月の四茎どみ地月
白緑の見ちとくめり茎れ汁ちちすとよ
ま見ちんドち海うちく入べ一月のまりうちさ
股ちのれちちうとちんドんち海ちんドちも
ちちさちべ
風切れ見茎の見ち　みくま尾ごうんめう
ごうんちも

昆梅、腥、南—京皿
季鷹、化、南—京操り

巫峽
巨峽

鷄ヤ九曜ト並如金盞花

德雅

三十三

金盞花

花合黄土の具にて付る花乃殆んど
ゝく朱をうゝぐ〜葉緑青を付る黄乃
汁絵ゝさ
ゆ黄を入るまの付て

雛

雛

目の回朱どみ嘴黄の具上に合黄
土ゝけ色ゝ桃肉色朱にてめり上多く
ゝり黄身白〜こゝん付る〜毛を
おゝ〜
雌ごゝん付る朱どみゝさ入府骨のごゝく
手を付けを保と年ゆ多く
雛せなゝ親ともんもみゝ毛上に朱黄を
ゝけ後ごゝん毛を用〜
黄ゝ付る一流ゝり毛まごゝりてのゝ
保ゝ日黄ゝり

三十四

南燭

園天竹

花ごゝん付る葉緑青ゝめり朱の汁
ゝ多を木朱どみ黄ゝり

鸚鵡

嘴足黄こ用の四朱どみ黄多ゝとゝ
黄付る色ゝりせゝりゆ〜ゝ〜ゝあいゝゝ
ゝす〜あいせこゝんゝて毛入毛み見切すゝ
法つゆれゝ〜ト後ごゝんゝす黄府尾脇
乃ゝ〜皆黄付る

もゝ入相天木山　尺志

乘益

三十五

赤鴨

花紫どみ付き茎葉の汁けを柔にぐんぐんと煮れ汁をすてうつ成をぐらうさとべし

刀鴨（たうび） 勛今 鴨今

嘴足黑仕立目の回り朱どみ赤ちごろん
脇より背より背中尾まで黑く成上に赤のどん
うみ肌細黑仕立二寸ほど黑の上縞まき翼
先ごろんひより脇合黃土朱もとえびく
府毛ちさき編ちゝより尾まで黑く成上に
朱どみちべし黑縞ごろんたべし

三十六

鵠春羅（ぐひ） 鴈皮

花紫地肉色光明丹にて仕立ちべうて
ちゝかいを入べし
葉緑色茎の汁ちうく成茎ちさ
茎白緑いづれも付立

千鳥（ちどり） 鴫

嘴足肉色上朱にて立記
脇より背中尾まで黑くまだらに茎の汁
うちちうく成肌細黑にて黑縞毛ちさき
淡茎の汁脇こうんく成こうんにてもち立
ちべし

隅田川の浦の夏　　惠風

一八や後ハ清らかに行る　　逸志

三十七

戈鳥尾　紫羅傘

花わさだわり緑青にてつぎ枝ごゑんにて
うき入中の筋こきうの白を入べし
葉緑青に茎ろけ下後多し

鵂鶹

月の内茶どみふちごゑん茶をみの具絵
茶ちゑんこ後上ちゑどみちけ下後ごゑん
くは多し日

三十八

蒐麹草　佛耳草

花ちゑうの具分立葉緑青に分立茎
乃汁こ後多し具後ゑ

鷗　紅鷗

背足赤し肉色わり朱こ後目の内ちゑう
絵身うす墨こ後足墨毛がきこゑごゑん
毛うきゑ入
頭ちゑ下後風初雨指ゑ山分白
はごゑん仕立法ごゑんにて毛ゑ足合
ちゑ

鼠麹黄蒿開岸頭　春江漾漾了閑鷗
不如人世浮沉叟　隨浪任風自在流

釋亮秀

百花鳥卷之三

百花やうらん柳のあらいと

石中子 琿文

三十九

金絲桃（びかつのやなぎ）

花葉ともにうすくこの葉よりちいさくごうんうてたるもの花びらの旬を付たる二筋ずつ金糸のごとく成いとあり私泥してうす緑色なれけりてうりう成筋ありてうべし

鶺鴒（とまどうしぎ） 田鳥 鴫 俗作

背黄茶土の色用れば茶ぐろみひくうちうちしろ色乃上、茶ぐろうけむあくまでうちうべし下後ごうん毛ハ用背中色々成茶ずこうけあくものろいそうしをへべし尾白緑の色色々成上ミ茶の汁くろ

四十

梅（ひめ） 棋樅

白くて地白緑の色うすくあるて上ごうん々成ちいさい黄ハ金泥行い茶ぐみ茶いごうノ色うちうちこの色うて白を付たるものあいづれも朱をみ木うちう色々成のうへ、おいろうすくうべし大和ゆう仕立て地木の色ゆう上色うちうすくうまこ木の色ハ白緑ハ色よりお色をへ木ハよりて冊のうちゆう茶の汁をかける

鸎（うぐいす） 鶯 黄鸝 倉庚 黄栗留 春鳥

背色色にて用の四者茶ぐみかいちゆう背中うす色々成上ミ茶のけをうくれ風切ともの々成腹ごうんうまうをうねぐいのトかうちうりうきゆひく成をとうべし

雷堂　百里

四十ばかりなるけゆうせる女

音山

四十一

茶樹

茗　別名櫃鼓茸

葉白く花のかたちごとくにて色ちがひたるものなり
花のかたちの白き入花のごとくかたちうるはしき
汁にて茶碗をあらはゞ茶碗はなはだ白くなる
なり　葉にて茶をもつくる

四十雀

鶯

背は黒き色にて腹はうすき色毛ありて
胸は白き色の黒きとまじりたるごとくなる
うすあさぎなる黒きとまじりたる背中
ろうにてうぐいすに似たり
又鶯にいと似たるうすあさぎなる
ろうぐいすのもようもあるいろごとくなり

四十二

福寿草

元旦茶すゝてきたるに花のうちにて
茶の汁にて飲もちゆるなり
とべし　葉菊に似て細くこまかなり
どんをくべし　茶の汁にて飲もちゆ

ちゞみ鳥

背は黒き色にて腹はうすあさぎ
腹は黒にて胸は白き色にて尾
は黒く翼は黒き色にて
べし　れんげの角にうすあさぎのきをひくまと
へあいろくもとべし

肥ゆるとは花はるとも福寿草　鮮〻

接ゝや袖の出る不驗吹　素丸

四十三

瞿麥　午麥

そうもとはふるくの異名なり花ごとに
うんうんとさべき人来二なん編書付来
くま爺出茅の付すそいづれも風情つよう
らそたちくさべー

風鳥

背足共に黒くむらさきより脇までとみくの
黒毛出頭赤くうの異背中翅黒く腹上に
朱ぐみ尾りくさくうの異うて毛出先
しのすくにて人を泥出八丈足合無稀毛出
朱黒うてもべー
足ちたうて常に用ひどくいべども古人
の居粗忽くうみ尚何ら人まれなりと
いへども画ぬのうるむ者後るれば古法記
ーぬ

四十四

檀持

花も他ちくう上来にて先ようわり分し
巻ーくう腹あり茅の付上に赤ぐくう腹く
ー来編書ちくう腹茅いづれも茅出
茅り付く

鶉

月の四来をみちちごうん常色そにて頬
ちくう付無稀黒く腹上に来ぐみうけ毛
出結来ぐ足にてようー尾付ぐへおにしご
うんにて出べー背風切黒仕出二年新来ぐ
みくまくうえごうんくの四ん合ごうんくうひ
入ぐー

咲やこのうらうめんハ春を堀

東正

今朝ハ鶯の出ようてあんとのま

七才 吉五郎

四十五

杏子（あんず）一名 酢梅

花ハ地多くの異高中に多くの花かゝ多くく
日をへごろんにて出べしちゝの異りて白ひを
実べし葉茎ともに人を悩うもを紅梅に似り
併正月ふも熟色ふも各別分る品あり
京紙付ハるべし

四十六

鶺鴒（しめ）

茎ハ高上に合英出るけ是月〜用れうち
うもと多くふちごろんにてかゝら脊中合英
出毛出茎をみと多く四りハ茎の異うもと蔵
色にて羽風切ハ茎仕立ふちごろんうけ二茎
羽ハ茎の高の上に多くうすくうけ茎ごろんに
てくゝ高〜う毛出ごろんなり

鶺鴒（ふじ）又 伯趙

茎ハ茎出ハ高のまゝ茎ゞみ脇合まゝど
背中茎ハ其ゝもくわり茎もうきもゝべし
風切茎仕立尾ハく用の四茎ずゝ

鶺鴒や梅の事　坑堂　梅宇

月白星柳うぐひす柳

連子

四十七

柳 楊

柒二ぐん緑色成ハ小緑付色白緑しそ
ハ色へるべし木葉うちり上たるとき黒ひけ
くべし

三光

背黒色ひたいうしろまで淡色にて
背中黒色ゑりくくりて上ニせうたん
ケ風切黒色尾淡色にて出上ニ細こん
ぜうとくべし下後角くこうんくまごうん毛
うさけり

四十八

葦世伊登宇

元下地あさぎにあり多く尾上ニこんぜうケ
羽のもの色ぬけ黒くくもべし柒緑まつろく
ま多くき茶の汁本朱ぞめ

き祢ぞめ

背黒色ひたいより背けまでくちばあさぎにあり
めいろにてもりき風切黒色仕ニ二色ねうす
黒色尾あさぎにて山口より股まで白しごうん
くまごうんもりき下股尻まで合ちうど朱
ぞめてもりたるべし

うぐいすのあしやらうこ小春あり

海市

多くの梅しをくれ吐五尾臭

恵風

四十九

紅梅

八重咲の花中に緑を交て三方咲を八ぜ
咲り他名々の咲中より名々に成か一重
名々ごとり門の右横よりごふんとまふすく紅
合べし右べごふん先白いさ赤まうの咲まて
付べしつがミ名々の上光明朱れ上沈を蔵く
うべしうそ分朱ぞみて実べし本うとりお
こ森く紅を賜へ

鴻鵠

黄足元に赤し肉色上朱名々ひうき紅目
元に付かり白ごふんとまを毛ごふんとり
地分黒く元仕立之脇ハ背中より尾く
仕立べし

五十

虎杖

花ごふんにて付立朱ぞみうて実入とび
葉り純合ととど朱の上すこうり成に
付朱うて筋立とべし

あぎ杖

黄黒く合芽土朱ぞみうり脇より背中黒
くまに上に朱ぞみうけを立府ろ〇巴時朱ぞみ
うり下後ごふんとまはぐく毛立脇より尾ま
で合芽土朱ぞとうて府を入目毛立とべ

見て紅ん虎杖あぎ沢乃鵠

曼羨